

2年生 世界史B 授業プリント

()月()日

()H()番 氏名()

検	
印	

【モンゴル時代のユーラシアと帝国の解体】(教科書 P.108 ~ P.109、図表 P.88 ~ P.91)

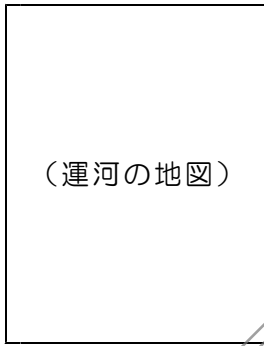
(0) 元代の陸路貿易と海上貿易

- ・【㊸】…大都を中心とする幹線道路にそって駅を設け、駅には周辺の住民から馬・食料などを提供させた。
- ・大都に至る新運河の建設：通惠河
- ・海運の発達…長江下流から山東半島をまわって大都に至る

⇒【㊹】が陸海交通の要となる

東西交通路の整備により

【㊺】がさかんになる



(1) 東西文化の交流

◎ モンゴル帝国を訪問した使節・旅行家

訪問地	人物名		目的・功績など
カラコルムを訪れる	プラノ=カルピニ	フランスコ修道士	ローマ教皇の命を受け、【㊻】と布教のため来朝
	ルブルック	フランスコ修道士	フランス王ルイ9世の命を受け、【㊼】と布教のため来朝
元の首都【㊽】を訪れる	【㊾】	フランスコ修道士	初代の大都の大司教 初めて【㊿】を布教
	【㊿】	ヴェネツィア出身の商人	フビライ=ハンに仕える 帰国後【㊿】を口述
	イブン=バットゥータ	モロッコの旅行家	旅行記『三大陸周遊記』を著す

◎ モンゴル帝国に流入した宗教・文化

- ・【㊿】教：清真教と呼ばれる。色目人が多い。
- ・キリスト教（カトリック）
→ それまでに伝わっていたのは【㊿】派のキリスト教（景教）
- ・チベット仏教：教主パスパはフビライの信任を受ける

・イスラーム科学…天文学・数学・地理学

↓
郭守敬…【㊿】を作成（1年=365.2425日とする正確なもの）
→ 江戸時代の貞享暦に影響を与える

※ 中国絵画⇒イランの細密画（ミニアチュール）に影響を与える

(2) 『世界の記述（東方見聞録）』

（『東方見聞録』マルコ・ポーロ、長澤和俊訳、小学館）

チパングは東のかた、大陸から一五〇〇マイルの大洋にある、まことに大きな島である。住民は色白で、礼儀正しい優雅な偶像教徒である。ここは独立国で、彼ら自身の国王をいただいて、この国の君主からも干渉されない。

この島では非常に豊かに金を産するので国民はみな莫大な量の金を所有している。それに大陸からは、商人さえもこの島へ来ないので、黄金を国外に持ち出されなかった。いま話したように、莫大な黄金のあるのもそのためである。

また、この島にある国王の宮殿の、その偉観について述べよう。この国王は、すべて純金で覆われた、非常に大きな宮殿を持っている。われわれが家や教会の屋根を鉛板でふくように、この宮殿の屋根は全部純金でふいている。その価値は、とても評価できるものではない。さらに宮殿内の各部屋の床は、全部指二本の厚みのある純金で敷きつめられている。このほか広間や窓も、いっさいがすべて金で飾りたてられている。実際、この宮殿の計り知れぬ豪華さは、いかに説明してもとても信用されないほどである。

この国ではたくさんの真珠がとれる。それは、美しいバラ色の、しかも丸くて大きな真珠である。これは、白い真珠と同じように高価なものである。実際はもっと値打ちがある。この島では、人が死ぬと土葬と火葬とが並び行われるが、この島の風習では、土葬にするときは、死んだ人の口の中に真珠を一つ入れる。この国では真珠のほかにも、いろいろな宝石が豊富に産出する。本当に豊かな島で、その富は語りつくせぬほどである。

さて、この莫大な財宝をもつ島国について耳にした大ハーン、すなわちいまの皇帝フビライはこの島を征服しようと思った。

① 日本はどのように紹介されているだろうか。

.....

.....

② この旅行記はヨーロッパ人にどのような影響を与えたのだろうか。

.....

.....

(3) モンゴル帝国の解体

◎ 地方的政権の動揺

14世紀、ユーラシア全域に天災続発・飢饉

モンゴル支配各国、内紛による政権の動揺

- ・チャガタイ=ハン国：ティムール台頭→イル=ハン国にも領土拡大
- ・キプチャク=ハン国：モスクワ大公国の勢力伸張

◎ 元の衰退

相続争い・内紛

チベット仏教信仰による浪費

交鈔の濫発⇒【◎】を引き起こす

専売制の強化

飢饉

↓

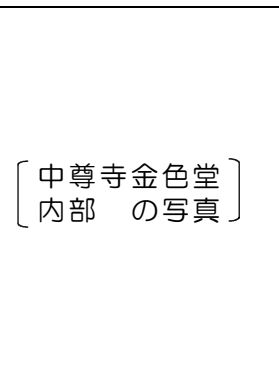
民衆の生活窮乏
社会不安の増大

↓

【◎】をはじめとして各地で反乱おこる

↓

元はモンゴル高原にしりぞく（1368年）



歴史探ののみ